

# 松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp

http://www.city.matsusaka.mie.jp

松阪教育支援センター「鈴の森教室」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp  
 松阪教育支援センター「うれしの教室」TEL 42-7374 FAX 42-4568 E-mail: uresino-k@matsusaka.ed.jp

## いずれも大切なことは・・・

リオデジャネイロ・オリンピックは、過去最高の41個のメダル獲得に、日本中が沸きました。レスリングの土性沙羅選手の金メダルは、松阪市民にとってまさにビッグニュースです。各選手の乗り越えた挫折や家族の支えなど、涙と感動のドラマが様々に取り上げられています。校長先生方には、9月早々の全校集会や学校だより等でお話をされたことかと存じます。また、パラリンピックでも同様の物語が生まれるでしょう。そして、選手たちはすでに4年後の東京オリンピックをめざしています（私の定年翌年です）。残り数秒、数センチ、数点での逆転勝ちと負け、その差はほんのわずかですが、とても大きな違いがあります。敗者にとって、その結果を受け入れるのは並大抵のことではないでしょう。



わが家では（全くレベルの違う話で、非常に恐縮ですが）長男が中体連の試合に負け、県大会出場の目的を果たせず、中学校生活最後の部活動の日となった夜、寝る前に両親それぞれに「今までありがとう」と言いに来た後、枕元からすすり泣く声が聞こえてきました。ご指導いただいた顧問の先生方に感謝し、親として無力感にうちひしがれながら、数日間見守るしかありませんでした。勝者と敗者、いずれも大切なことは、「その後の人生をどう送るのか」です。それから一カ月後、彼は夜の公園で1人でボールを蹴っています。（藪 晃明）

## たくさんのお講ありがとうございました！

### 研修講座報告1

講座の様子をご紹介します

#### B-2 授業力向上「中学校国語科におけるアクティブ・ラーニングを意識した授業づくり」

講師 宗我部 義則 先生

久保中学校で実際に授業をしていただき、その後、改めて国語科における言語活動について、その大切さや意義を明確にお示しいただきました。授業が進むにつれて、中学校3年生の生徒達の顔が上がり、生き生きと活動していく姿が印象的でした。国語のおもしろさを改めて実感させていただく講座となりました。



#### A-1 国語「単元のねらいをつかみ、より主体的に読んで伝え、力を高める授業

一本の世界に入って筆者の感動を受け止め、ともだちに伝えよう『森へ』一

講師 木村 祐子 先生

中川小学校6年生での師範授業、その後講義をしていただきました。単元の構成やねらいをつかみ、学習の見通しを持てるようにする指導について、具体的に分かりやすくご教授いただきました。木村先生がこれまでなされてきた実践を通して語られるお言葉から、授業者としての心構えや授業づくりで大切にしていかなければならないことを学びました。



#### B-19 乳幼児教育Ⅰ「遊びの中でその子らしさの土台が育つ～自然の遊びを中心に～」

講師 河崎 道夫 先生

異年齢集団の中で受け継がれてきた自然の遊びが子どもたちどうして手渡されにくくなってきた中、乳幼児教育に携わるおとながその遊びを子どもたちに手渡していく必要があること、遊び世界が豊かになることでその子らしさが発達すること等、保育における遊びの大切さを様々な事例を通して学ぶことができました。



## A-2 算数「思考力・判断力・表現力を育てる算数の授業づくり

～アクティブ・ラーニングを意識して～師範授業と講義」講師

盛山 隆雄 先生

示範授業では、子どもたちの顔が生き生きと輝き、課題に向かっていく様を目の当たりにして、盛山先生の授業力を強く感じさせていただきました。また、講義では、実践事例を多く紹介いただきながら「思考力・判断力・表現力を育てる」ということの実践的な取り組みについてお話を頂戴する中で、学び続ける盛山先生のお姿から、さらなる刺激を受けました。



---

## B-7 児童生徒理解「関わりの難しい児童生徒の理解と支援を考える～不登校児童生徒も含めて～」

講師 阿久澤 栄 先生

すべての人間には「大切にされ感」が必要。子どもが「愛情不足」を感じている状態であることに起因して、継続的な作業が難しい、絶えず1番を望むが自信がない等の行動に現れることがあること、そのような子どもたちに、スキンシップとほめることが有効であり、特にほめることが大切であることを教えていただきました。



---

## B-5 外国人児童生徒教育「教科指導型日本語指導に基づくわかりやすい授業づくり」

講師 臼井 智美 先生

教科指導型日本語指導、という観点から取り組む授業づくりが、全ての子どもたちに分かりやすい授業へとつながっていく道筋を具体的な事例を交えてお示しいただきました。「外国籍の子どもに対してだけでなく、他の子どもに対しても助けになるものだと感じました。」などの声があり、夏休み明けからの参加者の実践につながるものとなりました。

---

## B-9 生徒指導「Q-Uを活用した学級・学校づくり」

講師 粕谷 貴志 先生

具体的なQ-Uの結果なども交えて、教員がどのように読み、どう取り組むのか、ということをお示しいただきました。受講者自身が、自分の教室を思い浮かべながら考えるきっかけとなったのではないかと、思います。「校内研修会で子どもの見方に利用していきたい。」「事例検討の仕方について、もっと知りたくりました。」などの声がありました。



---

## A-3 理科「理科の授業づくり」

講師 平賀 伸夫 先生

理科の授業づくりのための考え方や手だてについて、具体的に「各グループで実験をする」という形で、「未知なものを観察・実験によって明らかにする帰納法」と「最初に真理を示し、それを観察・実験で確認する演繹法」を体験的に学ぶことができました。

学習の中心である子どもがより深く理解し知識を得るために、学習内容によってよりよい方法を選ぶことが大切であることを教えていただきました。



---

## A-6 体育/保健体育「子どもが夢中になる体育科授業づくり」

講師 松本 博 先生

子どもたちが夢中になって運動することが体力の向上につながります。体育の授業で子どもたちが夢中になってできる運動やゲームについて、子どもたちが運動している様子を動画で紹介していただきました。また、受講者が実際に体を動かしながら運動やゲームの特性を体感することができました。



---

## A-4 音楽「子どもがときめく音楽授業づくりの実際～鑑賞の授業はこうつくる！～」

講師 高倉 弘光 先生

本講座では、子どもたちの立場で、体で音楽を感じ、音楽との一体感の中で鑑賞すること、学年をお示しいただきながらの具体的な指導場面をご教授いただくことができました。どんな鑑賞の授業にも「仕込み」があり、その上で「何度も何度も（目的を持って）子どもたちに聞かせること」や「体で音楽を感じること」が重要であることを学ぶことができました。

